

2025年 5月 11日 << 聖餐式 ・ 母の日 >>

主 日 礼 拝 午前8時半 / 10時半 / 夜7時

司 会 白川 達男兄  
奏 楽  
祈 祷 石井 秀人兄  
賛 美 聖歌353番「世にもとうとき」  
～注ぎたまえ主よ～

ヤベツの祈り

聖書朗読 ローマ人への手紙14章1～8節  
特別賛美 小山勇児氏ご夫妻（バイオリン）  
メッセージ 「義と平和と聖霊における喜び」  
石井 潤 牧師

聖 餐 式 賛美「主イエスの十字架の血で」  
献金・賛美 聖歌229番「おどろくばかりの」  
祝 祷 〔献金：和田姉・寺澤〔政〕姉〕  
お知らせ 〔司会者〕  
賛 美 ～生ける限り～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆  
《今週のお知らせ》

☆本日は聖餐(主の十字架と復活)を感謝します。昼食はカレー。午後は執事会。  
★今週の祈り会は、①明朝6時。②木曜午前10時半、夜7時半。③土曜夜8時。  
☆来週の日曜第二礼拝後のお昼は「バーベキュー」を行います。本日、お申し込み  
くださると来週がスムーズです。白川兄か滝沢姉に会費をお願いします。  
(来週の礼拝の司会：白川兄、祈祷：洋子姉、献金：渡辺姉、寺澤〔千〕姉)。

| ☆☆一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [5/11ー/18]☆☆ |                        |             |             |             |              |     |           |           |
|--------------------------------------------------|------------------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-----|-----------|-----------|
| Date                                             | 日                      | 月           | 火           | 水           | 木            | 金   | 土         | 日         |
| 聖書箇所                                             | ヨハネ 3/<br>2 サムエル 17-18 | 3/<br>19-20 | 4/<br>21-22 | 4/<br>23-24 | 5/<br>1 列王 1 | 5/2 | 6/<br>3-5 | 6/<br>6-7 |
| チェック                                             | 〇/〇〇                   | 〇/〇〇        | 〇/〇〇        | 〇/〇〇        | 〇/〇          | 〇/〇 | 〇/〇〇〇     | 〇/〇〇      |

## 「義と平和と聖霊における喜び」

～私たちは自分の為ではなく、主のために、他者のために生きる～

「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。」 ガラテヤ人への手紙2章20節

パウロは主のために生きるように導きます。

このローマ14章では、信仰の弱い人を受け入れて、決してその人を裁いてしまわないようにと勧めています。ローマ人への手紙全体を通して語られている内容は「信仰」なのですが、この信仰がやっかいな部分があるのだということを伝えたかった。その人の経験や価値観によって与えられた信仰の姿勢によって、他のクリスチャンたちの信仰を裁いてしまうことが起こってしまうからです。

イエス様はペテロに対して「あなたはわたしに従ってきなさい！」とおっしゃったように、信仰の形はその人個人の形を持っています。だから、自分が「これが正しい！」と強く確信していても、それが他の兄弟姉妹にとって同様であるとは限らないということを理解していなければいけないということです。

最も大切なことは、表面に出てくるその人の信仰の態度が別の人にとって違和感のあるものだったとしても、その人自身が「主のために生きる」ということ、「自分自身は主のものである」と自覚しているのなら、その生き方は尊い生き方なのだと尊重する必要があるということです。そして、その人の信仰が価値あるものであると認めるのは、主ご自身だけであるのだから、私たちがとやかく言うことができる人は誰一人としていないのだということを語りました。

私たちは主のもの、主の栄光を表す人生を与えられているのです！